

教育課程編成委員会

記録者 高橋正行

日時 令和3年7月13日(火) 17:00~19:00

場所 新館8階ホール

出席者 内部委員(敬称略) 工藤佑輝、池田昌央、阿見芳明、境田三由紀、齊藤彩子、高橋正行
外部委員(敬称略) 吉田三晃、吉田昌央、石井孝治、竹野内宏明、堀口麻里、永井良幸、石川真樹

【全体会(17:00~17:30)】

1. 開会挨拶 : 校長 工藤

- (1) 専修学校を取り巻く環境変化について説明がなされ、職業実践専門課程の制度及び仕組みについて本校の現状の課題と今後の展望を話がなされた。
- (2) 企業等と密接かつ組織的連携による教育課程を編成するため、本校における委員会の設置基準、意義及び役割についての説明がなされた。
- (3) その他、本校の教育上の取り組みについて説明がなされた。

2. 教育課程編成委員会年間スケジュールの説明 : 高橋

【分科会(17:40~19:00)】

1. 令和2年度カリキュラムの振り返り:各学科長より

- (1) 概要説明
- (2) カリキュラム改善に向けての意見交換

2. 各分科会における意見交換の内容は以下のとおり

理容科

(1) ヘッドスパ

- ・入社後、一番早く入客することができる技術である。
- ・サロンでは10hほどのカリキュラムで行っている。
- ・ドライヘッドスパも導入しているサロンもある。

(2) アイアニング

- ・相モデル実習まで考えると、多くの授業時間数が必要になる。
- ・カットへのαとしてアイロンをメニューに加えているサロンがあり、お客様にも非常に好評である。(銀座マツナガ)
- ・飯村・岩田両先生のサロンでは、アイロン技術はスタイリスト育成カリキュラムとしては一番最後に習得すべき技術あるいは希望制にしているとのこと。

カリキュラム開発上、参考とすべきポイント

上記諸点について学科内で共有し、今後のカリキュラム作成に反映させる。

美容科

- (1) 美容科のカリキュラムの現状を改めて説明。コロナウイルス感染の常態化に伴い変更したことを外部委員とともに共有した。
- (2) 現在の美容科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーについて
⇒訪問美容師やフリーランス等も視野に入れたカリキュラム編成をするのなら、学生に夢を見させるだけではなく、それらの業務形態等についてもリアルな情報を伝える必要がある。
- (3) サロンでの新人育成はどのようなことをしているか
⇒全員到達するゴールは決まっており、目指す方法は個別で変えている。
具体的には、それぞれに合わせた得意な課題（技術、接客等複合的に）を3つ与え、目標に到達した課題から次の課題へ派生させる。このやり方により個人の能力を考慮しながら同じゴールへ到達させることができる。

ビジネス美容科

- (1) 学生状況報告
1年生：入学オリエンテーション ビジネスマインド
2年生：ビジネスマインド（キャリア教育） 就職活動報告
- (2) 今年度専門教育について
昨年度課題：強化しなければならない授業→応用技術（フェイシャル・ボディ）
応用技術作成後、後期より技術練習開始
今年度課題：プレゼンテーション授業の強化（提案力）
資格・検定の任意制度 新提案
昨年課題：健康管理士 検討中
日本化粧品検定について → 11月受験予定
- (3) 今年度キャリア教育について
昨年課題：人から求められる人材になる→評価を受け入れる、相手を受け入れる、
自分を知る
実践：承認・共感プログラム（1年生）
自己開示・自己実現プログラム（2年生）
サロン運営の見直し→他学科と合同サロン運営（ネイルサロン、エステサロン）
売上、シフト管理、顧客管理、広告、運営方法の共有化
様々な異業種の成り立ち、仕事への考え方・向き合い方・やりがい等を感じ、自分の考えをプレゼンする。
コロナ感染対策の為、後期より始動予定
- (3) 今年度人間教育について
目標・夢を持つ→夢を描けるエステティシャンになる、お客様の未来と一緒に歩む（人に興味を持つ）
人のために生きること、人のために何かを一生懸命に頑張れる人間になる
- (4) 入学前教育プログラムについて
入学前に行う職業意識、学業を学ぶ意識のとらえ方を見直す
① 文章型考察力 ② ビジュアル型考察力 ③ 保護者への感謝の手紙

④ 基礎学力（計算・漢字・自治問題等）

学生の基礎学力、ソーシャルスタイルを知り、入学後のグループワーク・セルフワークの方法に活かすことを行った。

期間が短いため、前期検証を行う。

ビューティアーティスト科

齋藤委員：カリキュラムについて

→ 授業で学んだ知識や技術を披露する場がないので、アウトプットの場として定期的にヘアショーを実施しようと考えている。他校のヘアメイク科にはない特色を作る。

石川委員：賛成。学校の試験だけクリアしていても社会に出た時に弱い。優等生ではなく社会に出たときに可愛がられる人材、自分の考えやアイデアを他者に伝えることのできる人材を育成すべき。

齋藤委員：就職開拓の方法・時期等について委員に質問

石川委員：どのような選択肢があるのかを学生に提示することが大事。また、「働く」ことについて幅広い価値観をもつことと並んで、具体的な勤労形態について正確な知識を学生にもってもらうことが必要。

これらのことに加え、キャリア教育の強化が必要。美容業界の働き方は変化しており、それに伴う教育内容の見直しをお手伝いできたらと思う。組織に属したいのか、個（フリーランス）で働きたいのか、ここに焦点を合わせたキャリア教育のカリキュラム開発を目指したい。

以上